

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策	01 国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策	08 伊勢湾内連携を強化する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運、物流企業、荷主
	サービスの対象物(何を)	名古屋港及び四日市港のコンテナ機能等
	意図(どういう状態にしたいのか)	多様なニーズに柔軟に対応できる
内容	中部地域の製造業の集積と伊勢湾(名古屋港及び四日市港)の港湾機能の総合力を活かし、一港化を視野に入れて両港が連携を行い、我が国の経済と産業の成長を牽引する「国際産業ハブ港」を実現していきます。	
目標	伊勢湾(名古屋港及び四日市港)が連携し、国際産業ハブ港の実現を目指します。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量減少

成果指標	実績等	年度							目標 平成25	指標の説明(式)
		平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25			
伊勢湾連携にかかる具体的施策の提案	実績	件				0	1	2	3	平成22年度からの累計
	達成率	%				0.0	33.3	66.7		
	実績									
	達成率									

2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成20年度～平成25年度						事業費の合計	目標値(年度)	平成25年度実施事業に基づく評価結果					
					実績	実績	実績	実績	実績	実績見込み			備考(判断の理由等)					
					上段:指標達成状況									準備(判断の理由等)				
	(企画調整室) 企画担当	伊勢湾スーパー中核港湾連携施策の推進(個08事01)	国、四日市港管理組合、中部国際空港(株)及び本組合等で構成する伊勢湾スーパー中核港湾連携推進協議会の運営を事務局の一員として行います。	連携施策の実施件数(件)	2	1	1				17,774	1(H22)	完了					目標を達成したため。
	(企画調整室) 企画担当	伊勢湾連携にかかる具体的施策の推進(個08事02)	国、四日市港管理組合及び本組合で構成する、伊勢湾連携協議会及びそれぞれの施策ごとの部会を開催し、伊勢湾連携にかかる具体的施策の提案をします。	具体的施策の提案(件)			0	1	2		12,704	3累計(H25)	やや遅れ	延伸	→	→	引き続き、実現可能な施策を取りまとめていく必要があるため。(H25→H26に延伸)	
				施策コスト(事業費合計)	9,647	6,007	2,120	4,741	4,021	3,942	30,478							

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。
注)目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として平成25年度を中間目標として設定しています。

※1

記入	内容
完了	前年度以前に完了した事業
順調	80%の進捗度合
やや遅れ	60%以上の進捗度合
遅れ	60%未満の進捗度合

※2

記入	内容
継続	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当
完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当
延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするもの
統合	他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当
休廃止	終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当

※3

記入	内容
拡大	何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの
維持	従来どおり進めていくもの
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの

※4

記入	内容
拡大	成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの
維持	従来どおり進めていくもの
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

次期政策体系への方向性	「次期政策体系への方向性」を判断した理由(本組合財政収支への影響の考察を含む)
成果※3	コスト※4
→	→
・引き続き、四日市港との連携強化に向けて取り組みを進める必要があるため。	
次期政策体系への展開(個別施策の構成、新規事業の創出、事務事業の見直し等)	
・幹事会で報告された施策について、今後、四日市港と連携し、取り組んでいきます。	

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

現政策体系における主な取組など	現政策体系における課題認識など
<p>・伊勢湾スーパー中核港湾連携協議会は、国策などを踏まえ、平成22年度に終了しました。引き続き、国際産業ハブ港を実現することを目的として、伊勢湾連携協議会を設置(平成22年9月30日)し、港湾サービス部会、港湾経営部会、貨物集荷促進部会にて名古屋港と四日市港の連携施策について検討を行っております。</p> <p>・平成24年度には、伊勢湾内の連携強化のため、新たな貨物集荷などの施策を検討する研究会(港湾サービス部会、貨物集荷部会から構成)を設置し、創荷・集荷を図るための背後圏産業の現状や今後の動向など企業ヒアリングを行うとともに、効果的な施策の展開の検討を行い、平成25年度に開催した幹事会においてその取りまとめの報告を行いました。</p>	<p>・伊勢湾が今後取り組むべき施策については、研究会で取りまとめ、幹事会で報告を行いました。今後、施策の実現に向けて取り組んでいく必要があります。</p> <p>・事務事業の構成(要複数)について検討しましたが、新たな事務事業の抽出には至りませんでした。</p>
現政策体系における事務事業の適正性	
・事務事業の構成は妥当です。	